



第 578 号

令和8年3月1日

今月は統一
会費納入月です

公益財団法人 千鳥ヶ淵
戦没者墓苑奉仕会

〒102-0075 千代田区三番町2

電話 03 (3261) 6700
FAX 03 (3261) 6712



https://boen.or.jp/
郵便振替口座 00140-2-42556

編集人 中村 勤
発行人 槻木 新二



墓苑の花「紫蘭」

花言葉

「あなたを忘れない」

防衛大学校学生
による慰霊参拝
による慰霊参拝
毎年恒例の防衛大学
校学生有志による「東
京行進」が令和7年12
月13日から14日にか
けて行われた。793名

2026年
「千代田の
さくらまつり」
主催：千代田区および一般社団法人
千代田区観光協会
開催時期：3月5日(木)～4月22日(水)
開催場所：千鳥ヶ淵緑道など千代田区
各所
開催内容：各種イベント等
問合せ先：一般社団法人
千代田区観光協会
電話：03-6774614826
(平日09:30～17:30)
FAX：03-67737192884
E-mail: chiyoda-sakura@jtb.com
※詳細は千代田区観光協会HPで3月
10日に掲載予定



遺骨引渡式

終戦80年を経てパラオ諸島から91柱



遺骨収集団から厚生労働省へ引き渡される91柱のご遺骨



帰還報告する齊藤团长

パラオ諸島からの戦没者遺骨引渡式及び遺骨収集団の解団式
令和7年12月18日、当墓苑で厚生労働省主催によるパラオ諸島戦没者遺骨引渡式及び遺骨収集団の解団式が海上自衛隊中央音楽隊による奏楽のもと実施された。
12月1日から12月18日の18日間、20名(注)の遺骨収集団がパラオ諸島のペリリュー島、アングウル島及びゲドブス島での収集活動を行い、収容された91柱のご遺骨が遺骨収集団から厚生労働省に引き渡された。
遺骨収集団の解団式で遺骨収集団長の齊藤愛美さんは「戦前から八十年が経ち、関係者も高齢化し、現地に赴くことが難しい御遺族も増えています。我々派遣団は多くの方の思いを胸に、一日でも早く、日本人戦没者をお迎えし、御遺骨を日本に送還できるよう、そしてご家族の元に帰れるよう、今後も尽力して参りますので、DNA鑑定を迅速化を切にお願い申し上げます」と帰還報告を述べた。
参列した上野厚生労働大臣は、先の大戦で祖国を思い、愛する家族を案じつつ、苛烈な戦闘の末に遠い異郷の地で亡



引渡式終了後、厚生労働省霊安室へ向かうご遺骨

くなつた英霊に対して、改めて哀悼の誠を捧げた。
また遺骨収集団に対しては、島々へのポートでの移動や照りつく炎天下での遺骨収容作業など大変厳しい環境での献身的な活動に対し、深謝の言葉で労をねぎらった。また、終戦80年を迎え、引き続き国の責務として遺骨収集事業に一層尽力すると述べた。
厚生労働省の発表によると、パラオ諸島での戦没者概数は16、200人で収容遺骨概数が9、310柱(令和7年12月18日現在)、帰国を果たせない多くの遺骨が残っている。
(注)：パラオ諸島遺骨収集団20名の構成
・一般社団法人日本戦没者遺骨収集団推進協会 11名
・一般財団法人日本遺族会 3名
・水戸二連隊ペリリュー島慰霊会 3名
・特定非営利活動法人JYMA日本青年遺骨収集団 3名

東京行進に携わってくださった方々への感謝
第一大隊責任者 4学年 兵頭 慶信
防衛大学校からの約70kmに及ぶ徒歩
(第二面につづく)

この慰霊参拝は、学生の自主活動で防大の伝統行事となっており、計画・実施はすべて学生の責任でなされている。その目的は、徒步行進により心身を鍛錬するとともに、千鳥ヶ淵戦没者墓苑及び靖国神社を参拝し祖国に殉じた英霊を慰霊することで愛国心の高揚を図り、あわせて学生間の団結を深めることである。
学生の編成は、第1大隊191名(女子学生33名)、第2大隊217名(女子学生36名)、第3大隊222名(女子学生33名)及び第4大隊163名(女子学生27名)の4個大隊。各大隊は、墓苑到着後、制服に着替え、駐車場を隊列を組み墓前へと前進、前屋で奉仕会の保松理事長はじめ担当理事から墓苑について説明を受けたのち、代表学生が墓前に献花し、同学生の号令で全員が敬礼・黙とうを行い慰霊参拝は終了した。以下、各大隊の責任者である4名の所感文を紹介する。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑
「春の茶会」のご案内
日時 令和8年4月5日(日)
9時30分～15時
場所 千鳥ヶ淵戦没者墓苑
東京都千代田区三番町二
電話 03(32661)6700
最寄り駅 東西線・都営新宿線
九段下駅下車2番出口
半蔵門線
半蔵門駅下車5番出口
主催 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕茶会
薄茶席 遠州流茶道
田中 宗末 先生
表千家流 芦田 隼 先生
表千家不白流 木村 宗慧 先生
演奏
ぶらイム(テルミン)：大西ようこ氏
ギター：三谷郁夫氏) + 柁淵三朗氏
*お茶会への参加ご希望の方は事前にお茶券の購入が必要です。
細部のお問合せ先：千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕茶会
https://www.houshichakai.com



7年4月の茶席の1コマ



防大から墓苑までの経路(約70km)

(第一面からつづく)
 行進や千鳥ヶ淵戦没者墓苑への参拝という貴重な体験を通じて、先の大戦を戦い抜いた先人たちへの、そして日頃から我々にご助力してくださっている方々への感謝の念がより一層深まった。

私は今回、第1大隊の責任者として参加した。今年は例年と異なり小雨が降る悪天候で、戦没者墓苑参拝時には気温も5・6℃と低く参加している学生の体調に気を配りながら大隊の指揮を執らなければならなかったが、代表者として献花・奉納等を行い、我が国のために命を落とした先人たちの墓苑に近づき献花し黙祷するという名誉な役をさせて頂き、このような立場で参加せねば得られない緊張感や荘厳さを肌で感じることとなった。

私は、我々が日本人として日本の土地に豊かに暮らし、日本語で学問を修め、そして日本の文化を堂々と愛することができるのは、他でもなく、先の大戦を戦った方々や、戦後の長きにわたる歳月の平和を維持してくださった方々の弛みない努力の賜物であるとの思いを持って生きてきた。そして先述した貴重な体験をする機会を得ることができたのは、過去の多数の防大生達による努力の積み重ねは勿論のこと、この東京行進という学生主催の行事の実施に際し賜った千鳥ヶ淵戦没者墓苑並びにその他関係者の皆様からのご協力、及び、日頃から我々学生に愛情をもって接してくださる指導教官のご指導によるところが大であり、我々を取り巻く全ての方々の愛とご助力によるものであったと感じた。我々が自身の力のみで成せることは決して多くはなく、常に色々な方々の歩んだ軌跡の上を歩き、誰かの助けを得ながら生きていくのであるということに再認識することに繋がる東京行進参加であった。



雨の中、墓前に整列した防大生

今後も、常に我々を支えてくださっている方々への感謝を忘れず、任官後は共に働く全ての隊員に感謝するよう努力を目標とせねばならないと強く感じました。また、終戦以来人々の弛みない努力により築かれてきた今日の我が国の平和と繁栄を我々の手で次の世代へと繋いで行かねばならないと強く胸に刻んだ。

文末とはなつたが、今回、この学生主催の行事の運営・成功のためにご助力いただいた千鳥ヶ淵戦没者墓苑並びにその他関係者の方々への最大限の感謝を示し、この所感文の結びとさせていただきます。

4度目の東京行進を終えて
 第2大隊責任者 4学年 山名 拓弥
 令和7年12月14日、止むことのない冷たい雨が降りしきる中、防衛大学校学生有志約800名による「東京行進」が実施されました。10年に一度と言われる雨天での行進は、私にとって4度目の東京行進でも過酷を極めました。卒業前最後にふさわしい集大成と言えき行事となりました。



墓前での献花に向かう学生代表

防衛大学校から九段下までの約70kmを一昼夜かけて踏破し、千鳥ヶ淵戦没者墓苑並びに靖国神社を参拝する伝統ある私的な行事です。今年は、雨による体温の低下から低体温症者が発生し、完歩できない学生が発生する中、私は第2大隊の責任者として、下級生を鼓舞しながら全員で完歩を目指しました。

今回の参拝において、私は改めて千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠る英霊に深く思いを抱きました。ここは「無名戦士の墓」として知られ、お名前が分からない、あるいは引き取り手のない三十七万柱を超えるご遺骨が納められています。その多くは、望んで軍隊に奉職した職業軍人ではなく、平穏な暮らしがありながらも国や家族のために徴兵を受け入れ、過酷な戦地で国のために殉じられた方々であると思われました。彼らの無念や、祖国の安寧を願う切実な思いを想像すると、その命運を預かっていた指揮官の責任がいかに重いものであったかを痛感せずにはいられません。

私は大隊責任者として学生を指揮しましたが、極限の疲労と寒さの中で号令を間違えてしまうことがありました。それでも、学生は私の誤った号令に忠実に従いました。これがもし有事であったら、幹部の僅かな判断ミスが部隊を壊滅させ、多くの尊い命を無駄にしてしまう危険性があります。千鳥ヶ淵戦没者墓苑に今なお多くの方が眠り、また海外にも帰国を果たせぬご遺骨が数多く残されているという悲劇を繰り返してはなりません。将来、自衛隊の中核を担う私たちが歴史に学び、任務に対する強い使命感と、部下の命を預かる責任感を向上させることこそが、この行事の真の意義であると確信しました。

靖国神社に向かう道中、私は1学年時の記憶を反芻していました。当時は晴天であつたものの、身を切るような冬の寒さの中で歩き続け、疲弊しきっていた私を励ましてくれたのは当時の上級生でした。防寒具を貸してくれ、温かい飲み物と共に励ましの言葉をかけてくれた先輩方の背中を今でも鮮明に覚えています。4年が経ち、今度は私がその役割を担う番となりました。降り続く雨と睡魔、足の痛みという困難を分かち合い、分隊全員で完歩した瞬間の充足感、学生舎生活で培ったことのできないものでした。

最後になりますが、雨天の中、多大なご支援を賜りました千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の皆様にご心より感謝申し上げます。日本の平和と安全を守り続けるという決意を胸に、まずは日々の学業や訓練を今以上に真摯に取り組み国民から信頼される自衛官を目指す所存です。今回得た知見と伝統を後輩に引き継ぎ、今後の行事の継続と発展を祈念するとともに支援していきます。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑の献花は、そうした知識を実感へと変える機会となった。墓苑には、先の大戦で犠牲となり、身元が判明しなかった多くの戦没者が祀られている。納められた遺骨の数が約37万柱に及ぶという事実は、文字で読めば一行のデータに過ぎない。しかし、実際にその場を訪れたことは、37万という数字がただの文字列ではなく、一人ひとり人生があり、それぞれに思いがあつたことを強く実感させた。

我々が歴史を学ぶ意義は、単に過去の事例を暗記し、教養として身に付けることにあるのではない。歴史とは、過去から現代へと繋いできた人々の意志の集積である。特に防衛の一端を担う立場にある者にとって、歴史の教訓を学ぶことは、当時の人々が直面した困難や選択を体験し、それを自分自身の資とすることに他ならない。知識としての歴史を学ぶことを通じて、その上で自身がどのように感じ、そしてこれからのように進んでいくべきかを問いつけることこそ、真の学びの意義であり、我々が日々学ぶ理由であるといえる。

歴史から学ぶべきこと
 第3大隊責任者 4学年 花藤 貴政
 今回の東京行進を通じて私が最も強く感じたことは、歴史と現代の間に存在する連続性である。我々は日々の教務においても、防衛学などを通じて戦史を含む歴史について学んでいる。しかし、こうした教場での学びは、時として戦略や戦術の分析、あるいは年表上の出来事といった、記号化された知識の範疇に留ま

つてしまいがちである。千鳥ヶ淵戦没者墓苑の献花は、そうした知識を実感へと変える機会となった。墓苑には、先の大戦で犠牲となり、身元が判明しなかった多くの戦没者が祀られている。納められた遺骨の数が約37万柱に及ぶという事実は、文字で読めば一行のデータに過ぎない。しかし、実際にその場を訪れたことは、37万という数字がただの文字列ではなく、一人ひとり人生があり、それぞれに思いがあつたことを強く実感させた。

我々が歴史を学ぶ意義は、単に過去の事例を暗記し、教養として身に付けることにあるのではない。歴史とは、過去から現代へと繋いできた人々の意志の集積である。特に防衛の一端を担う立場にある者にとって、歴史の教訓を学ぶことは、当時の人々が直面した困難や選択を体験し、それを自分自身の資とすることに他ならない。知識としての歴史を学ぶことを通じて、その上で自身がどのように感じ、そしてこれからのように進んでいくべきかを問いつけることこそ、真の学びの意義であり、我々が日々学ぶ理由であるといえる。

この経験をともに、歴史だけでなく、日々の学びを単なる知識や教養としてではなく、自身の資とすることを意識して、日々の生活と教務に誠実に励んでいきたい。

平和への願いと平和を望む覚悟
 第4大隊責任者 4学年 航平
 東京行進に参加するたびに感じるが、防大の建つ小原台から千鳥ヶ淵戦没者墓苑に至るまでの道のりは、発見と苦難の連続である。起伏に富んだ三浦半島に始まり、街道の面影を残す旧東海道、疲労で周囲を顧み余裕が薄れる中で圧倒的な存在感を示す東京のビル群、そして皇居のほとりに見えてくる千鳥ヶ淵。約70kmに及ぶ道のりは決して容易なものではなく、心身ともに過酷な行進ではあるが、日常の学生生活や訓練では決して得ることのできない貴重な経験であつたことは間違いない。

私にとって東京行進への参加は、1学年時から数えて今年で4回目、学生生活最後の参加となった。年を追うごとに身体的な疲労が軽減されている点に自身の確かな成長を実感する一方で、最上級生として下級生を指揮し、安全に導くという責任の重さを痛感する機会でもあつた。今年は小雨がばらつき気温も例年より低かつたが、経験の浅い1学年の体調を気遣いながら分隊を指揮したことは、日頃の学生舎生活で培った指導力を発揮し、磨く絶好の機会となった。寝不足と疲労を抱えながら小雨の中、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にたどり着いたが、いざ制服に身を包み六角堂の前に立つと自然と背筋が伸び、そこに眠る三十七万柱以上の戦没者の方々に思いを致した。この地は、名前の分からない戦没者のご遺骨が納骨室に納めてある「無名戦没者の墓」であるとともに、先の大戦で亡くなられた全戦没者の慰霊追悼のための

この経験をともに、歴史だけでなく、日々の学びを単なる知識や教養としてではなく、自身の資とすることを意識して、日々の生活と教務に誠実に励んでいきたい。

平和への願いと平和を望む覚悟
 第4大隊責任者 4学年 航平
 東京行進に参加するたびに感じるが、防大の建つ小原台から千鳥ヶ淵戦没者墓苑に至るまでの道のりは、発見と苦難の連続である。起伏に富んだ三浦半島に始まり、街道の面影を残す旧東海道、疲労で周囲を顧み余裕が薄れる中で圧倒的な存在感を示す東京のビル群、そして皇居のほとりに見えてくる千鳥ヶ淵。約70kmに及ぶ道のりは決して容易なものではなく、心身ともに過酷な行進ではあるが、日常の学生生活や訓練では決して得ることのできない貴重な経験であつたことは間違いない。

私にとって東京行進への参加は、1学年時から数えて今年で4回目、学生生活最後の参加となった。年を追うごとに身体的な疲労が軽減されている点に自身の確かな成長を実感する一方で、最上級生として下級生を指揮し、安全に導くという責任の重さを痛感する機会でもあつた。今年は小雨がばらつき気温も例年より低かつたが、経験の浅い1学年の体調を気遣いながら分隊を指揮したことは、日頃の学生舎生活で培った指導力を発揮し、磨く絶好の機会となった。寝不足と疲労を抱えながら小雨の中、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にたどり着いたが、いざ制服に身を包み六角堂の前に立つと自然と背筋が伸び、そこに眠る三十七万柱以上の戦没者の方々に思いを致した。この地は、名前の分からない戦没者のご遺骨が納骨室に納めてある「無名戦没者の墓」であるとともに、先の大戦で亡くなられた全戦没者の慰霊追悼のための



喇叭伝承会 11月16日



神奈川県大和市遺族会 11月12日



岡山県民主医療機関連合会 11月22日



自徳院、東前寺 11月16日



東京都狛江市遺族会 11月27日



静岡県御前崎市遺族会 11月16日



千葉県銚子市遺族会 12月7日



曹洞宗埼玉第二宗務所 11月27日



埼玉県加須市遺族連合会 12月1日



阿含宗清掃奉仕 12月14日



千葉県花見川老連 12月1日

各団体の慰霊参拝



日本を良く知る会 12月10日



神奈川県伊勢原市遺族会 12月7日



喇叭保存会 12月14日



千葉県野田市遺族会 12月4日



防衛医科大学校 医学科学生 12月11日



防衛医科大学校 看護科学生 12月11日



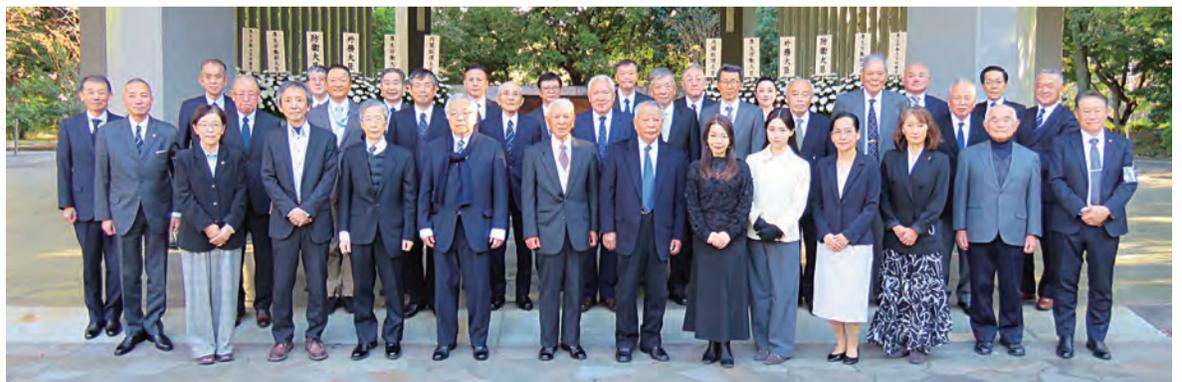
帝京大・麗澤大 12月12日



陸自衛生学校幹部初級課程 12月11日



普明会月例参拝 1月9日



水交会月例 12月18日

各団体の慰霊参拝

(第二面からつづく)

聖苑である。現在私は学生の身分で学業に励んでいるが、春には自衛官となり、「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託にこたえること」を誓う身となる。自ら身をもって我が国の平和の礎となった先人たちは、国防に携わる者として決して忘れてはならない存在である。東京行進における千鳥ヶ淵戦没者墓苑での慰霊参拝は、今我々が生きている毎日の平和の有り難みを感じると共に、国家防衛に身を捧げる自衛官として将来勤務する覚悟を改めて認識する機会となった。

そもそも東京行進は、指導官の手に頼ることなく、有志の学生たちの手によって計画から実行まで完遂されている。自主自律を基調とする防大生の矜持として、この行進を通じて得た多くの学びや思索の機会を一時的なものに留めることなく、伝統の重みとともに後輩たちへと襷を繋いでいきたい。

新日本宗教学青年会連盟による

「第60回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(青年平和式典)

昨年11月30日、新日本宗教学青年会連盟(新宗連青年会)主催による「第60回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」が開催され、加盟教団の会員・信徒および一般人約400人が参列した。また、来賓には新藤義孝孝義院議員及び野田佳彦衆議院議員など国会議員も招待された。

式典は午後1時に開始され、冒頭、祭壇に灯と千羽鶴を捧げる献灯・献鶴を行い、新宗連青年会・宮本泰克委員長による挨拶の後、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会・保松秀次郎理事長からの青年に向けてのメッセージに続いて、参加15教団による教団別の拝礼、平和へのメッセージ、平和の祈り(黙祷)の順で執

り行われ、最後に代表挨拶として新宗連・石倉寿一理事長が挨拶し、式典は終了した。

今回60回目を迎える同式典は、多数の宗教団体が、互いの教えや信じるものの違いを超えて結成された新宗連青年会が、戦争犠牲者に思いを馳せ、絶対非戦と世界平和の実現を祈るため、1962年より行われている。これまで終戦の日前後の8月14日に開催されてきたが、終戦80年の節目の今年、過去だけにとわかれず、未来の平和実現に向けて祈りと行動を深めていくという強い思いから、新宗連青年会の結成月である11月年平和式典」とした。

本式典は、新宗連加盟全教団からの支援により開催され、そのうち教団別礼拝に参加した15教団は、阿吽阿教団、円心教、救世真教、解脱会、思親会、

松緑神道大和山、崇教真光、善隣教、祖神道教団、大慧會教団、大法輪台意光妙教会、玉光神社、福聚の会、妙智會教団、及び立正佼成会であった。

自然観察とどんぐり工作教室

12月13日(土)終戦80年記念事業の一つとして、若年層への当墓苑に対する認知度を高める目的で、小学生低学年を対象として、「自然観察とどんぐり工作教室」を企画実施した。実施するにあたって、千代田区の後援を取り付け、広報千代田への掲載を行ったが、参加希望者が少なかつたので、近傍の番町小学校、九段小学校、百合学園小学校へパンフレットを受付に置かせていただいたほか、三番町会の協力得て募集に努めた。その結果、小学生5名、成人5名、小学生の保護者2名、計12名の参加を得て実施できた。

自然観察では、参加者は墓苑内を散策しながらリース作りに使えるどんぐりや枝・葉を拾い集めながら、工作教室のインストラクターからどんぐりの種類や生物の説明を熱心に聞いた。その後、会議室において、集めたどんぐりなどをグルーガンを利用して、思い思いのリースづくりに挑戦した。でき上がった作品は写真のとおりである。参加者からは、ゆつくり墓苑内を散策できた。どんぐりでのリースづくりは楽しかった、また来たいなどの声もあり、毎年実施する予定であるので、その際は是非参加していただきたい。



挨拶する石倉理事長

平和の祈りで黙祷する参列者



仕上がった作品

令和8年度会費納入のお願い

奉仕会の慰霊事業は、ご支援者の皆様の浄財と会員の皆様からの会費により運営させていただいております。今回から会費の会計年度(4月から翌年3月)に合わせて会費納入案内を5月から3月に変更させていただきます。正会員および特別会員の皆様には、令和8年度分年費の納入について宜しくお願ひ申し上げます。この際、恐縮ではありますが、これまでの年度分の会費につきまして未納がある方には、本号を郵送した封筒に同封した振込票に付記しております。令和7年度分を含め、行き違い等がございましたら、事務局までお知らせください。なお、3年間会費の納入が確認できない場合には、規定により退会扱いとさせていただきますのでご理解の上ご了承頂きますようお願い申し上げます。

奉仕会年度会費納入者(団体・個人)(敬称略、順不同)

- 新入会員(敬称略、順不同) ※ (正)は正会員、(終)は終身会員、(特)は特別会員
 - 清田節子(正)、阿江昌弘(正)、福田太陸(正)、山本龍世(正)、長野 隆(正)、田中 誠(正)、土井貴範(正)、渡辺昭一郎(正)、大澤久司(正)、堀内強定(正)、神田将弘(終)、鈴木 新(終)、中野高行(終)、齊田 歩(終)、鈴木勝貴(終)
- 奉納者(団体・個人)(敬称略、順不同)
 - 加須市遺族連合会、銚子市遺族会、クラスノヤルスク遺族会、普明会教団、新宗連、日本を良く知る会、水交会、(株)秀拓、(株)あざみ、新井八重子・新井勇人、向井正興、福島一貴、加賀谷正子、高倉正達、廣木正勝、福田太陸、柴田米實、柏谷康博、木村祥之、菊地良鷹、高木大輔、廣川貞雄、酒井治雄、宮崎 格、宮崎朋子、廣川剛秀、藤崎翔己、大木美蘭、宇佐見和孝、大和田裕也、前山敦茂、田中重保、青柳幸司、岩浅博之、Ms.Prommas Prapichaya、秀平良子、ホシノアユミ、藤森博昭、赤坂甲治、一杉 満、矢吹つね子、米原恭淳、田村和彦、田村照彦、田村恵子、細井忠彦、二宮類四郎、飯泉 浩、本水博幸、小林菊恵、深澤巖木
- 終戦80年募金(団体・個人)(敬称略、順不同)
 - 高野山真言宗第二地域伝道団、其田健二、塚原 正、鈴木貴子、鈴木清二郎、永島順子、阪口美保、表木 猛、中島苑子、金子四郎、川口義一、島本昌彦
- 参拝団体(前項以外、敬称略、順不同)
 - 野田市遺族会、伊勢原市遺族会、全国日蓮宗青年会立正平和委員会、千葉県花見川老連、日本会議大阪、防衛医科大学校、防衛大学校、陸自衛生学校、喇叭保存会、喇叭伝承会、千代田区海洋少年団
- 清掃奉仕(敬称略、順不同)
 - 阿含宗清掃奉仕
- 献花台奉仕者(敬称略、順不同)
 - 一翠古流(内藤理扇、冀輪理佳、土田理雪)、池坊壺宮式(下村柳泉、吉岡いずみ、下村欣二)、池坊宝生流(長谷川一翠、大澤勝風)、柴山古流、縁山流(濱中冷雅、北川冷智、高畑冷恵、垂井冷杏)



自然観察の説明を聞く参加者たち

終戦80年募金の御礼

昨年は終戦80年を迎え記念事業を計画し、その実施のため皆様にご協賛の募金をお願い申し上げたところ、多くの会員及び協賛団体等の皆様に快く応じていただき、計画した事業を予定どおり実施することができました。特に、秋季慰霊祭は、終戦80年の節目にふさわしいものとなったと思っております。

皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。なお、募金収支の概要につきましては、下記のとおりとなっております。来年度もリニューアルした墓苑でお待ち申し上げます。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
理事長 保松 秀次郎

終戦80年募金収支概要

収入		
個人	273名	14,885,000円
団体	10団体	295,000円
合計		15,180,000円
支出		
終戦80年秋季慰霊祭		4,833,750円
広報紙終戦80年記念号		752,318円
広報・啓発活動(冊子パンフ)		2,188,760円
墓苑環境等の整備リニューアル		
説明板等設置ほか		1,590,414円
合計		9,365,242円
差引額(残金)		5,814,758円

残金の用途については、令和8年度以降も終戦80年事業の一環として墓苑環境整備等の事業を継続いたします。

令和8年1月31日までの受付分を掲載、2月1日以降の受付分は次号に掲載します。

六角堂 説明板を新たに設置 — 終戦80年事業の一環として —

1月21日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の六角堂内に、六角堂および陶棺について解説する説明板を新たに設置しました。本説明板は、終戦80年事業の一環として、墓苑の役割や慰霊のあり方について来訪者の皆様の理解を深めることを目的に整備したものです。

六角堂は、海外の戦地等で亡くなられ、帰還を果たせなかった戦没者のご遺骨を陶棺に納め安置している、墓苑の中核となる施設です。説明板では、六角堂の役割や陶棺について、初めて訪れた方にも分かりやすくご紹介しています。

参拝・献花の前後に、六角堂の柱の傍に設置された説明板をご覧いただき、静かに慰霊の場への理解を深めていただければ幸いです。



六角堂の説明板と担当した住吉理事



左右の柱に新たに設置した説明板

NHKテレビ番組で当墓苑が放映される
昨年12月18日(木)、NHK「首都圏」



NHK側の質問に答える村山さん

「ネット」で約10分にわたり、墓苑奉仕会・専従員の村山かおりさんを通して、奉仕会が遺族会や慰霊団体だけでなく若い人を対象にして、慰霊の継承に努力し、終戦80年の記念講演会などを企画して、JYMA(日本青年遺骨収集団)などと連携している様子などが放映された。

同映像は1月21日(水)の「おはよう日本」でも全国放送された。

参拝して想う(休憩所ノートより)

○先の大戦で戦死された皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。しかし今なおウクライナや中東で戦火がやむことなく繰り返されていることに心を痛めております。我が国を含む極東アジア地域の安全保障の環境は大変厳しさを増し、我が国を含む極東アジア地域の平和と安定が脅かされるようなことはあってはならないと強く感じております。今年には終戦から80年となりますが、これからも我が国日本の平和、そして世界中が平和となつてほしいと心から願ってやみません。御霊の安らかならんことを心からお祈り申し上げます。平和が一番です。

令和7年11月26日

茨城県古河市 末木 慶

○祖父がシベリア(チタ州 ホチエン)に抑留され、昭和21年5月19日に亡くなったと祖母からずっと聞いていました。

祖父21才の時、私の母がおなかの中に居た時でした。今、祖母も3年前に97才で亡くなり、母は一度、母の姉とお参りにきましたが、もう母も叔母も東京まではなかなか来られず、娘の私が今日来ました。戦争がなければ祖父は21才で亡くなる事もなく祖母と幸せに暮らしていたと思います。戦争はもう二度とおこつてはいけません。ここに来て、悲しい気持ちになりました。戦争で亡くなった皆様のご冥福をお祈り申し上げます。秋田から来ました。

令和7年12月4日 匿名

○本日伺えて本当にありがとうございます。先人の皆様方から感謝して拝礼いたしました。亡き両親も心から感謝しております。すばらしい日本よ、おめでとう。

令和8年1月19日 美鈴

奉仕会だより

3月〜4月の献花の予定

- 花古流 今井 草悦
- 松風花道会 中川 玲水
- 古流わかば会 古澤 君水
- 藤栄流 武藤 理春
- 落合 一文
- 古流茂風会 大藤 茂風

令和8年 役員会議等の予定

- 令和7年度 期末監査
- 令和8年4月10日(金) 10時00分〜墓苑会議室
- 令和8年度 第1回通常理事会
- 令和8年4月23日(木) 10時30分〜墓苑会議室
- 令和8年度 定時評議員会
- 令和8年5月21日(木) 10時30分〜墓苑会議室

*GHI市ヶ谷から墓苑会議室に変更

それぞれの会の2週間前までに関係各位へ細部の連絡をメール等でお送り致します。

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人 **日本宝くじ協会**
https://jla-takarakuji.or.jp/

